

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長  
(公印省略)

### 病虫害発生予察情報について

令和6年度病虫害発生予報第8号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病虫害防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

## 病虫害発生予報第8号

(予報期間：3月上旬～4月中旬)

### 予報内容

#### 水 稲

- ・ **ばか苗病、もみ枯細菌病(苗腐敗症)、褐条病、苗立枯細菌病**の発生は、**平年並**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。  
なお、育苗にため池や河川水を利用する場合は、苗立枯細菌病の発生に留意する。

#### 麦 類

- ・ **オオムギうどんこ病、雲形病、赤かび病**の発生は、**やや多**と予想される。発生が認められたほ場では、随時防除を実施する。

#### 果 樹

- ・ **ナシ黒星病**の発生は、**多**と予想される。一次感染期である発芽後～5月下旬までの防除を徹底する。
- ・ **カキ炭疽病**の発生は、**多**と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

#### 野菜・花き

- ・ **タマネギべと病**の発生は、**やや多**と予想される。早生種の発病に注意し、初期の防除を徹底する。
- ・ **トマトキバガ**の発生は**多**と予想される。発生を認めたらすぐに防除を行う。

※ 防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
--

## ---気象予報---

1か月予報（令和7年2月27日付け 新潟地方気象台）

予報期間：3月1日～3月28日

### [確率予報]

気 温	低い	20%	、	平年並	30%	、	高い	50%
降 水 量	少ない	40%	、	平年並	30%	、	多い	30%
日照時間	少ない	30%	、	平年並	30%	、	多い	40%

### [概要]

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、向こう1か月の降雪量は少ないでしょう。

#### ・3月1日（土）～3月7日（金）

天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

#### ・3月8日（土）～3月14日（金）

天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

#### ・3月15日（土）～3月28日（金）

天気は数日の周期で変わるでしょう。

3か月予報（令和7年2月25日付け 新潟地方気象台）

寒気の影響を受けにくいため、向こう3か月の気温は平年並か高いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。

2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、  
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

## 1 水稻の病害虫

### 苗立枯病（ピシウム菌）

発生時期	育苗期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (-)
注意事項	(1) 育苗資材や施設の洗浄・消毒を励行する。 (2) 育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### 苗いもち

発生時期	育苗期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の穂いもちの発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (-)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### ばか苗病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### もみ枯細菌病(苗腐敗症)

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### 褐条病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### 苗立枯細菌病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-)

- 注意事項
- (2) 育苗期の気温は高い (+)
  - (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
  - (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。
  - (3) ため池や河川水を利用する場合は、発生に留意する。

## 2 麦類の病害虫

### オオムギうどんこ病

- 発生時期 連続発生
- 発生量 やや多
- 予報の根拠 (1) 現在の発生は未確認 (±)  
(2) 気温は高い (+)
- 注意事項 (1) 発生を認めたほ場では、随時防除を実施する。

### オオムギ雲形病

- 発生時期 連続発生
- 発生量 やや多
- 予報の根拠 (1) 現在の発生は未確認 (±)  
(2) 気温は高い (+)
- 注意事項 (1) 発生を認めたほ場では、茎立期の防除を徹底する。

### オオムギ赤かび病

- 発生時期 出穂後
- 発生量 やや多
- 予報の根拠 (1) 前年の発生は平年並 (±)  
(2) 気温は高い (+)  
(3) 降水量はほぼ平年並 (±)
- 注意事項 (1) 出穂前後の降雨は発生を助長する。  
(2) 出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を徹底する。

## 3 果樹の病害虫

### ナシ黒星病

- 発生時期 感染期は発芽から
- 発生量 多
- 予報の根拠 (1) 前年の発生はやや多 (+)  
(2) 気温は高い (+)  
(3) 降水量はほぼ平年並 (±)
- 注意事項 (1) 一次感染期である発芽後～5月下旬までの防除を徹底する。

### カキ炭疽病

- 発生時期 感染期は4月以降
- 発生量 多
- 予報の根拠 (1) 前年の発生は多 (+)  
(2) 気温は高い (+)  
(3) 降水量はほぼ平年並 (±)
- 注意事項 (1) 罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。  
(2) 休眠期の防除を徹底する。

## 4 野菜・花きの病害虫

### タマネギベと病

- 発生時期 感染期は4月上旬  
発生量 やや多  
予報の根拠 (1) 気温は高い (+)  
(2) 降水量はほぼ平年並み (±)  
注意事項 (1) 早生種の発病に注意し、初期の防除を徹底する。

### 灰色かび病

- 発生時期 連続発生  
発生量 やや少  
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)  
(2) 気温は高い (-)  
(3) 降水量はほぼ平年並み (±)  
注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。  
(2) ハウス内の換気に努める。

### トマトキバガ

- 発生時期 連続発生  
発生量 多  
予報の根拠 (1) フェロモントラップの誘殺時期は早い (+)  
(2) 気温は高い (+)  
注意事項 (1) 発生を認めたらすぐに防除を行う

### ハダニ類

- 発生時期 連続発生  
発生量 並  
予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)  
(2) 気温は高い (+)  
注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

### アブラムシ類

- 発生時期 連続発生  
発生量 並  
予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)  
(2) 気温は高い (+)  
注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。